令和元年度やまがた緑環境税特集号

# 森林やまがた

県民みんなで支える森づくり

上：やまがた緑環境税の支援を受けて整備を行った森林（酒田市）
左：第20回「砂防林を育てよう」（酒田市）
右：緑の少年団置賜ブロック交流研修会（飯豊町）

目次


やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声… 2
やまがた緑環境税を活用する事業展開 …… 3
やまがた木育推進事業の取組み…… 4
山形県低コスト再造林技術実証事業の取組み…… 5
各地域における森林整備の取組み …… 6
やまがた絆の森づくり推進事業の取組み…10
県民参加の森づくりの推進……12
やまがた緑環境税PR活動の取組み……16


**県民の皆様の御協力に深く感謝申し上げます**

**「やまがた緑環境税」は県民共有の財産である森林を守る事業に活かされています**

# やまがた緑環境税を活用した森づくりに対する県民の声

山形大学農学部准教授　林　　雅秀

平成28年にやまがた緑県民会議委員を拝命して以来、やまがた緑環境税（以下、「本税」）の評価に関わらせていただくのは今年度で４年目となりました。山形大学農学部で研究と教育を行なっているので、私は一応、学識経験者という立場でこの会議に参加しています。このたびは巻頭記事寄稿の機会をいただいたので、これまでの会議出席で感じたことをやや敷衍（ふえん）して、森林に関わる政策と科学との関係について考えてみます。

ご承知のように本税では、毎年およそ６億円が住民税および法人税に上乗せする形で山形県民から徴収されています。この６億円を財源としてさまざまな事業が行なわれますが、それらの事業は森林の有する公益的機能の維持増進に寄与することが求められています。そうした事業と税の徴収に関して、科学的な方法で探求すべき課題はさまざまですが、おそらくもっとも期待されるのは、本税を活用して行われている各種の事業が森林の公益的機能の維持増進にどの程度寄与しているといえるのかという課題ではないかと思います。しかし、「学識経験者」の私にとって、この課題に応えるのは容易ではありません。その理由を端的に言えば、私（をはじめとする研究者）は、科学的知識を生産するための訓練を積んではいますが、社会的な決定の支援に必要な知識を生む方法には疎いためといえます。

自らの責任を放棄するわけではありませんが、これは私だけでなく、私以外の多くの研究者も同様ではないかと思います。科学技術社会論を専門とする藤垣裕子氏は、研究者たちがタコツボ的な専門主義に陥っていると指摘しています。ではなぜ専門主義に陥るかというと、研究者たちは、ジャーナル共同体が行うレフェリー制という制度のなかで、その知識（たとえば何らかの因果関係）が妥当か否かを判断する仕組みになっているからだと言います。

つまり、私たち研究者は、社会的あるいは学術的に重要だと信じてある研究テーマについて調査研究を行い、その成果を論文という形でジャーナルに投稿します。投稿された原稿は、ジャーナルの編集者が適当と判断したレフェリー（匿名のケースが多い）によって審査され、レフェリーの意見を参考にして編集者が掲載可／修正を条件として掲載可／却下、などの審査結果を著者に返します。審査の際には、内容に新規性があるかどうかや、論理に矛盾がないかどうかなどの基準を満たしているかどうかが重視されます。因果関係がかなり明確であるような種類の知識のみがジャーナルに掲載され、それが不明瞭なものは掲載されません。また、研究者はレフェリー制をとっている論文の本数によって評価を受けるため、論文というかたちの知識の生産に専心することになります。こうして生産される知識は、市民一般が必要とする知識と乖離（かいり）することが多い、と藤垣氏は主張します。

話を本税に戻すと、研究者が生産する知識は、本税の評価にとって有益と考えられるような、ある事業が森林の公益的機能の増進に貢献するのかという問いに直接答えるような知識であることは稀です。そうではなく、論文審査のプロセスに耐えるような論理一貫性があるけれども社会的にはあまり役に立たない知識をしばしば生産します。そうしたギャップを埋めるためにはどうしたらよいのか、藤垣氏は相互理解を促す必要があると述べています。それ自体が容易なことではないと思いますが、緑環境税の効果と学術的研究との関係を再考する端緒になればと期待しつつ、本稿に述べさせていただきました。

# やまがた緑環境税を活用する事業展開について【令和元年度】2月補正後予算

## R1 やまがた緑環境税活用事業 796,143千円
## （うち やまがた緑環境税 709,160千円）

### Ⅰ 環境保全を重視した森林施策の展開【森林環境緊急保全対策事業費】627,822千円（うち やまがた緑環境税 540,839千円）

#### ① 環境保全を重視した森林整備の推進（588,565千円 うち 緑環境税 501,582千円）

◇荒廃森林緊急整備事業　事業量 *1,131ha（森林ノミクス推進課：588,565千円　うち 緑環境税 501,582千円）*

■人工林整備　*事業量 635ha　340,573千円（うち 緑環境税 253,590千円）*

手入れが不十分で荒廃のおそれのある人工林の整備

やまがた緑環境税による整備 434ha
国庫補助事業を活用した整備（森林環境保全直接支援事業等）201ha

○針葉樹林維持型

人工林を適正に維持、管理するための間伐や森林作業道の設置等を行う

～多様な樹齢からなる森林が面的に配備され、公益的機能が持続的に発揮される森林へ～

○針広混交林型

広葉樹との混交の促進を図る強度間伐を行う

～自然生態系が豊かで公益的機能が高度に発揮される森林へ～

■里山林整備　*事業量 496ha　247,992千円（うち 緑環境税 247,992千円）*

病害虫被害で活力が低下した里山林の再生。被害木の伐採や補植等を行う

～多様な樹種や年齢で構成する緑豊かな明るい里山林へ～

#### ② 森林資源の循環利用の促進（39,257千円）

◇森林資源再生事業

*事業量 42ha（森林ノミクス推進課：9,920千円）*

森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的に発揮する仕組みを構築するために、再造林に要する経費の一部を支援する。

◇森林資源循環利用促進事業

*事業量 47,123m³（森林ノミクス推進課：27,837千円）*

間伐材等をラミナ（集成材）、合板等用材やチップ、ペレット等の木質バイオマス燃料等として利用するための搬出等を支援し、環境保全に配慮した木材の利用促進を図る。

◇広葉樹林健全化促進事業

*事業量 1,539m³（森林ノミクス推進課：1,500千円）*

ナラ枯れ被害木を含むナラ林を伐採し、チップ等への活用に併せ、害虫の駆除とナラ林の若返りを図るため、搬出及び作業道の設置を支援する。

### Ⅱ みどり豊かな森林環境づくりの推進（147,039千円）

#### ① 県民参加の森づくりの推進（137,040千円）

【みどり豊かな森林環境づくり推進事業】*（みどり自然課：122,744千円）*

地域住民や市町村が行う計画的かつ広がりのある活動や地域と連携して行う森づくり活動等への支援

1　豊かな森づくり活動　（地域住民との協働による里山林の保全活動）
2　自然環境保全活動　（希少野生生物の生息地の保全活動）
3　森や自然とのふれあい活動　（子ども達や地域住民に対する森林・自然環境学習）
4　木に親しむ環境づくり　（木材の地産地消の取組み）

【やまがた絆の森づくり推進事業】*（みどり自然課：950千円）*

企業と地域が連携した森林の保全・活用と里山の活性化に向けた取組みの支援

1　企業・森林所有者・県による「やまがた絆の森協定」に基づく森づくり活動の推進
2　整備森林の $CO_2$ 森林吸収量認証による森づくり活動の見える化

【森づくりサポート体制推進事業】*（みどり自然課：13,346千円）*

地域住民や市町村、企業による森づくり活動を総合的に支援

#### ② 自然環境保全対策の推進（9,999千円）

【生物多様性戦略推進事業（一部）】

*（みどり自然課：2,386千円）*

自然環境の変化等についての総合的なモニタリング調査

【鳥獣管理推進事業（一部）】

*（みどり自然課：5,914千円）*

里山など森林に生息する大型野生動物の実態調査

【野生鳥獣捕獲体制強化支援事業（一部）】

*（みどり自然課：304千円）*

人と野生鳥獣の共生の担い手育成

【大型野生鳥獣等野生復帰事業（一部）】

*（みどり自然課：1,395千円）*

傷病等で救護された野生鳥獣の復帰支援

### Ⅲ 豊かなみどりを守り育む意識の醸成（21,282千円）

#### ① 森林・自然環境学習等の推進（2,837千円）

【やまがた木育推進事業】*（みどり自然課：2,837千円）*

1　やまがた木育推進委員会の開催
2　子どもの成長段階に合わせた木育教材の作成等
3　「やまがた木育」を指導できる人材を育成する養成講座の開催等

#### ② みどりを育む意識の醸成（17,557千円）

【みどりの循環県民活動推進事業】*（みどり自然課：13,725千円）*

1　やまがた森の感謝祭等の開催
2　森を守り、育て、暮らしに活かす「緑の循環システム」を体験する各種イベントの開催（森のホームステイ、木工体験会等の開催）
3　やまがた緑環境税の普及啓発
PRパネル展の開催や広報誌「もりしあ」の発行、各種情報発信サービスの活用等による普及啓発

【やまがた山水百景魅力アップ事業（一部）】*（みどり自然課：1,163千円）*

やまがた百名山探訪マップでのやまがた緑環境税ＰＲ

【総合支庁実施事業】*（総合支庁：1,892千円）*

◇村山総合支庁　・むらやま版・木のある生活推進事業（森林整備課）
◇最上総合支庁　・BEST! 森づくりリーダー育成事業（森林整備課）
◇置賜総合支庁　・置賜みんな一緒に森林活動ネットワーク事業（地域保健福祉課）
　・おきたま源流の森づくり活動推進事業（森林整備課）
◇庄内総合支庁　・出羽庄内公益の森づくり事業（森林整備課）

【やまがた緑環境税広報啓発事業】*（税政課：777千円）*

やまがた緑環境税の周知、広報

#### ③ やまがた緑環境税の評価・検証等（888千円）

【やまがた森林ノミクス県民会議事業（一部）】

*（森林ノミクス推進課：146千円）*

やまがた緑環境税の活用に係る意見交換、連携推進、情報共有

【やまがた緑環境税評価・検証委員会事業】

*（みどり自然課：742千円）*

やまがた緑環境税活用事業の評価・検証等

やまがた木育の実践

# やまがた木育推進事業の取組み

（みどり自然課）

## 1．はじめに

県では、県民の豊かなみどりを守り育む意識の醸成を図るため、「やまがた木育推進方針」を平成30年３月に策定しました。県民が森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直す活動を「やまがた木育」として取組みを進めています。

今年度は、「やまがた木育」の推進を図るため、指導者を養成する講座を開催しました。また、意見交換及び情報共有を行うため、「やまがた木育推進委員会」を開催したのでご紹介します。

### ◆やまがた木育人材養成講座

1　期　日　７月28日（日）、８月４日（日）
2　場　所　県立農林大学校（新庄会場）
　　源流の森（置賜会場）
3　参加者　幼児施設の教職員や県民の森案内人
　　計51名
4　内　容　①　「やまがた木育」について
　　②　山形県の森林について
　　③　木材の利用について
　　④　木育プログラム実習（木製スプーンづくり、野外活動、安全管理）

木材の利用について（講話）

午前の部は、参加者が「やまがた木育」を適切に指導する上で必要な知識を身につけてもらう学習をしました。山形県の森林文化や森林の有する多面的機能、木材という素材の特性やそれを活かした利用例等について講師から解説いただきました。

午後の部は、「やまがた木育」のプログラム実習を行いました。木製スプーンづくりや、葉っぱを使った記念ハガキの制作等を実際に参加者に体験してもらうことで、指導のポイントについて理解を深めました。

木製スプーンづくり

### ◆やまがた木育推進委員会

1　期　日　10月17日（木）
2　場　所　県庁1001会議室
3　参加者　委員及び関係各課　計19名
4　議　事　(1)「やまがた木育」の取組状況について
　　(2)「やまがた木育」を推進していく上での課題と対策案

委員の方々からは、様々な貴重な意見をいただきました。その中で、「SNSを活用したやまがた木育の情報交換や報告の場があるといい」といったアドバイスをいただき、県のホームページや当課のフェイスブックの有効活用を検討しているところです。

当日は活発な意見交換が行われ、非常に有意義な時間になるとともに、改めて「やまがた木育」に対する期待の大きさを実感する場となりました。

### ◆おわりに

今後は、「やまがた木育」を一層推進していくため、指導者の確保やスキル向上と併せて、実施体制の整備を進めてまいります。引き続き多くの方々に体験していただき、木材や森林に親しみ、その良さを実感していただきたいと思います。

# 山形県低コスト再造林技術実証事業の取組み

（森林研究研修センター）

## 1．はじめに

山形県の森林資源は収穫の時期を迎えるとともに、県内にも集成材工場やバイオマス発電施設が整備され、今後木材の需要拡大が見込まれています。森林資源を循環利用していくためには、伐ったら植える（再造林）必要があります。しかし、木材を売った収益に対し再造林を行う経費や、その後の育林にかかる経費が大きいことから、なかなか再造林が行われないのが現状です。これは他県でも同様で、植える苗木の本数や下刈り回数を減らすなど経費を抑える方法が検討されはじめています。

これらの方法は、積雪等の気象条件や地形・地質等が異なる山形県でも通用するとは限らないことから、本県への適合性についての実証試験を行っています。

〈他県で検討されている方法とコスト削減効果〉

○植栽〈低密度で植栽する方法〉

これまでの苗 2,500本/ha → 手間：56～63%削減 コスト：11～30%削減 → コンテナ苗 1,500本/ha

○下刈り〈回数を減らす方法〉

6年生まで毎年＝6回の下刈り → 手間・コスト：50%削減 → 2,3,5年生＝3回の下刈り

## 2．事業の内容

平成30年11月に県内に５箇所の試験地（山形市門伝・真室川町関沢・米沢市入田沢・鶴岡市早田・遊佐町吹浦）を設け、これまでの苗より小さく植えやすい「スギ・コンテナ苗（２年生、35㎝）」を植栽しました。従来１haあたり2,400～3,000本植栽していたものを1,500～1,800本まで減らして下刈りの手間はどう変わるのか、スギの材質はどうなるのか、下刈り時期の見直しや回数を減らしても林となるのかなどを観察していきます。また、地拵え（植栽する前に苗木の生育環境を良くするため、雑草や灌木などを取り除く整地作業）方法の違いによって、その後の下刈りの手間や成長量に違いがでるのか調査しています。

## 3．分かってきたこと

現時点では、植栽から１年が経過したところなので、まだ植栽密度や下刈り回数ごとの成長に差はみられませんが、植栽前の状況や地拵えの方法などの違いから低コスト再造林を実現するヒントが見えてきたので紹介します。

・地拵えを入念に行った林地は、下刈りが楽になる。
・刈った雑草木をそのままにする地拵えの場合、コンテナ苗を雑草木の隙間に植えると、植え列が揃わなく、苗が雑草木に埋まってしまうため、下刈り時に苗木が見えにくいなど、下刈りに苦労する。
・伐採から年数を置いて植栽した場合や列状間伐後に伐採した林地は、灌木の量が多く地拵えや下刈りに苦労する。

刈った雑草木に埋もれる苗木

## 4．新しい地拵え工法

（グラップルによる巨大レーキを使った地拵え）

地拵え作業は、その後の下刈りの効率を左右する大事な工程です。そこで、長野県での取組みを参考に巨大レーキを試作してみました。

重機の入れない急な斜面であっても、重機のアームやブームの長さと巨大レーキで、作業路から10m程度は機械地拵えが可能となり、今回の施工地では人力地拵えの場合と比べて4.8倍効率が上がりました。

今後はレーキの形状や作業方法などを改良し、多くの現場で取り組めるように改良していきたいと考えています。

巨大レーキを使った地拵え

# 各地域における森林整備の取組み

（村山総合支庁）

## 村山地域における森林整備について

### 1．これまでの森林整備について

村山地域では、長年放置され荒廃のおそれのある森林、病害虫などで荒廃した森林の整備について、「やまがた緑環境税」を活用して平成19～30年度までに4,339haの森林整備を実施しました。

令和元年度には、委託事業として、荒廃のおそれのある人工林の針葉樹林維持型192haと森林作業道389m、病害虫などで荒廃した里山林整備79haの森林整備を実施しました。また、補助事業として、人工林の搬出間伐50ha、幹線道路沿い等で著しく景観を損なっている里山林の森林景観整備４ha、人と動物との共存林12ha の森林整備を実施しました。

今後も、荒廃のおそれのある森林の整備を進めるとともに、事業の PR に取り組んでいきます。

森林の整備状況

### 2．上山市での共存林の整備について

上山市ではサルやクマ等の野生動物が人の生活圏に近づき、農作物に深刻な被害（平成30年度の被害面積270ha）をもたらしています。特に、山林近くに位置する小笹、久保川、大門、菖蒲の４地区では、その被害に長く悩まされてきました。そこで、やまがた緑環境税を活用して下刈りと抜き切り2.9haを実施し、人と動物の共存を図る緩衝地帯（バッファーゾーン）を整備しました。また、森林整備を実施した区域に、地域住民が電気柵を設置し、やまがた緑環境税を活用した森林整備と一体的な有害鳥獣対策が行われました。今後は、地域住民が中心となって整備を行うこととしており、継続的な取組みが期待されます。

※侵入防止柵の設置はやまがた緑環境税事業対象外

# 最上地域における森林整備について

## 1．これまでの森林整備について

最上地域では、長年人手が入らず、整備されていない荒廃のおそれのある森林を、「やまがた緑環境税」を活用して間伐等の整備を行っています。平成19年度から令和元年度までの13年間で約2,838haの森林の整備を行いました。今後も荒廃のおそれのある森林を健全で公益的機能が発揮される森林に導くため、間伐や森林の管理に必要な森林作業道の整備を進め、人と森林が調和できるよう、整備に取り組んでいきます。

間伐後の森林の状況（新庄市）

## 2．令和元年度の森林整備について

令和元年度は、荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林等を維持していくための整備を中心に、間伐207.9ha とその森林内に、森林作業道5,433mを整備しました。

また、人と野生動物の共存を目的に、活力の低下した里山林17.1haを対象に、刈払いや不良木の伐採、枝落しなどの森林整備を行いました。

人工林の整備状況（舟形町）

森林作業道の整備状況（金山町）

里山林の整備状況（戸沢村）

## 3．再造林への支援について

最上地域では、平成27年度から、積極的にやまがた緑環境税を活用し、伐採跡地の再造林へ支援しており、令和元年度は23.2haのスギ林を再生しました。今後も森林の有する公益的機能の維持増進及び持続的な発揮のため、支援を継続してまいります。

平成27年度に再造林した箇所の現況（金山町）

令和元年度に再造林した箇所の現況（金山町）

# 各地域における森林整備の取組み

（置賜総合支庁）

## 置賜地域における森林整備について

### 1．これまでの森林整備の状況

「やまがた緑環境税」を活用した荒廃のおそれのある森林の整備については、平成19年度～30年度で3,250haを実施しました。令和２年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林の計画的な整備を進めていきます。

### 2．令和元年度の森林整備の状況

荒廃のおそれのある森林のうち、スギの人工林約39haに対して人工林を維持していくための間伐、刈払い、枝落とし等の森林整備を行いました。また、病虫害などにより活力が低下している里山林約118haに対して、森林の健全性を回復するための森林整備を行いました。

また、補助事業として、「森林景観整備」18.3ha、「人と動物との共存林」0.2haの森林整備を実施しました。

さらに、森林の公益的機能の維持増進と持続的発揮を図るため、約３haのスギ等の植栽に係る再造林経費の一部を支援するとともに、国庫補助事業を活用した搬出間伐と森林作業道の開設についても支援を行いました。

今後も地域座談会等をとおして、多くの森林所有者の方々のやまがた緑環境税の認知度向上と、本税を活用した森林整備事業のＰＲに努め、着実な整備を図っていきます。

**【針葉樹林維持型】**
（白鷹町）

手入れ不足により木が混み合い、生育不良となっていたため、スギ林として公益的機能の発揮が維持されることを目的として、スギが健全に生育できる空間を確保するための間伐を行いました。

**【里山林整備】**
（飯豊町）

松くい虫とナラ枯れ被害を受けて枯損した木が多く立っていました。そのため、倒木等による二次被害の防止と健全な里山林の再生を目的として、枯損木の伐採を行いました。

**【再造林】**
（米沢市）

スギの伐採跡地を放置すると、ヤブ化が進み、森林の公益的機能が低下するおそれがあります。そのため、現地調査を行い、スギの成長に適している場合は、スギ再造林を積極的に行います。

# 各地域における森林整備の取組み

## 庄内地域における森林整備について

### 1．これまでの森林整備の状況

庄内地域では、「やまがた緑環境税」を活用し、平成19年度から平成30年度までの12か年で荒廃のおそれのある森林の整備を約5,085ha実施しました。

来年度以降も引き続き、荒廃のおそれのある森林の整備を実施し、水源のかん養や山地災害防止等の森林の公益的機能が持続的かつ高度に発揮されるよう取り組んでいきます。

### 2．令和元年度の森林整備について

#### 〈海岸クロマツ林整備〉

松くい虫被害により、活力が低下している庄内海岸のクロマツ林において、枯損木の枝折れ等による二次被害の防止を目的として森林整備を実施しました。被害量は減少傾向にありますが、里山林再生に向け、継続して整備を実施していきます。

#### 〈針葉樹林維持型〉

長期間手入れされなかったことで生育不良となり、活力が低下しているスギ林において、公益的機能の高度な発揮を目的として間伐を実施し、健全なスギ林への誘導を図りました。森林整備後は林内に光が入るようになり、環境が改善されました。

#### 〈 景 観 整 備 〉

市町が実施する幹線道路沿いで景観を著しく悪化させている里山林の整備に対し、支援を行いました。整備後は見通しが良くなり、景観が改善されました。

#### 〈作業道の整備・再造林等〉

林業事業体が実施する搬出間伐や作業道の整備、再造林に対し、支援を行いました。今後も再造林の促進等、森林の公益的機能の維持増進のために支援を継続していきます。

# やまがた絆の森づくり

## にしかわ絆の森

所 在 地　西川町大字沼山地内（大沼キャンプ場隣接地）　　面積：1.7ha
協 定 者　日東ベスト㈱、沼山区、西川町、山形県
活動内容　日東ベスト㈱は、食品の製造工程や設備の洗浄で大量の水を使用しています。また、森は水を貯え、浄化し、私たちの生活を守っています。人の口に入る食べ物を扱い、また、美味しく食べてもらうには安全で良質な水の確保が必要であることから、上流の「森づくり」が必要と考えました。

植栽や下刈りはもちろん、遊歩道の整備としてラ・フランス枝のチップを雑草抑制とクッション材として遊歩道に撒く活動を中心に行っております。

下刈り体験

ラ・フランスチップ撒き

## 荘銀かねやま絆の森

所 在 地　金山町大字金山地内　　面積：49.65ha
協 定 者　㈱荘内銀行、㈲三英クラフト、金山町、山形県
活動内容　荘内銀行では、二酸化炭素の吸収源確保や生物多様性の保全、環境教育の実践と当行役職員のコミュニケーション活性化を目的に、2010年に「荘銀かねやま絆の森」を開山して以来、山形県、金山町、三英クラフトと連携しながら植林、下刈り、つる切り、除伐などの保育活動のほか、自然観察体験、林産資源活用体験、木工クラフト体験など森に関わる様々な体験活動を通して、森林の保全や活用に関する重要性について理解を深めてきました。

森づくりには毎年、行内から積極的な参加者、新しい仲間が集まり、活動の輪が広がっています。多くの役職員が経験者となることで、森づくりに対する着意や活動への理解がより醸成されており、今後も、活動の定着化とコミュニケーションの活性化を一層図っていきます。

2020年度は、山形県、金山町、三英クラフトとの連携をさらに密にし、継続して森づくりに取り組むとともに、活動を通して、金山町を中心とする地域との交流を深め、森づくりを起点とした地域活性化に貢献していきたいです。

下刈り体験

木工クラフト体験

# 推進事業の取組み

（みどり自然課）

## 朝日相扶 絆の森 白鷹

所 在 地　白鷹町大字十王地内（白鷹町ふるさと森林公園）　面積：4.1ha
協 定 者　㈱朝日相扶製作所、白鷹町、山形県
協定期間　第１期：平成25年２月14日～平成28年３月31日
　　第２期：平成28年４月１日～令和３年３月31日
活動内容　弊社は、木製家具製造に携わる社員に森や木に対する慈しみを育み、森の成り立ちについて学ぶことを目的として、平成25年度から白鷹町ふるさと森林公園内のブナ林の除間伐や下刈りなどの森づくり活動に取り組んでいます。ブナを100年育てることを考えれば実に壮大かつ地道な活動が必要と考えます。

## ＪＴの森 鶴岡

厳しい自然と向き合う
三百年の知恵と遺産を未来に伝える

所在地　鶴岡市大字下川地内　面積：25.33ha
協定者　日本たばこ産業㈱、下川生産森林組合、鶴岡市、山形県
活動内容　2019年５月18日、「JTの森鶴岡」で森林保全活動が行われ、地元の方々をはじめ、JTグループ従業員とその家族など約160名が参加しました。活動前に「皇太子殿下御即位記念植樹」と「JTの森鶴岡第三期記念植樹」を緑の少年団と行いました。

今回の活動は、防砂林を再生するために、クロマツの幼木を植樹し、幼木を守る「木製の防風柵」を製作して、設置する活動です。「木製の防風柵」は間伐材を使い、地元森林組合などの方々の指導のもと参加者が力を合わせ製作して、植樹した幼木の場所に設置しました。

汗を流した後は、参加者全員で名物の「孟宗汁」の昼食をおいしくいただき、午後の活動で植樹地隣にある特産「庄内メロン」の栽培ハウスを見学し、防砂林が地域で果たしている役割について理解を深めることができました。

JTは、2009年４月に山形県、鶴岡市、下川生産森林組合（民有地所有者）と森林保全協定を結び、現在３期目の活動に入っています。暮らしや農地を守る防砂林としての機能を高める活動に取り組むとともに、訪れた方が森林と親しむことができる環境保全活動を目指します。

# 村山地域における森づくり活動の取組み

（村山総合支庁）

## （1） 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（市町村提案型））

### 【山形市の取組み】

山形市では、平成30年度から山形市児童遊戯施設「べにっこ広場」と連携し、豊かな森や自然とのふれあい、木に親しむことの大切さを感じてもらい、森林資源の利用拡大に繋げるため「森に親しむ学習会」を開催し、木育活動の推進に取り組んでいます。

令和元年度は市報「広報やまがた」に掲載し応募のあった先着30組の親子を対象に、「家具工房モク」の指導のもと、様々な種類の木材を使った木琴づくりを体験し、木の種類の違いによる香りや音の違いで、木の温もりを実感してもらいました。

今後もこの活動を毎年継続的に開催し、木育を推進していくとともに、親子で共同作業にすることで親子の絆を深め、自然を大切にする優しい心を育むことができるよう取り組んでいきます。

## （2） NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（県民提案型））

### 【蔦の木川原に集う会の取組み】

「蔦の木川原に集う会」では、山形市上東山地区で里山の機能回復を目指し、荒廃した森林の下刈りや不良木の除去、散策路の整備などの活動を行っています。

令和元年度は、自然の大切さを知ってもらうため、一般市民の親子を対象にした巣箱を組み立てる木育体験学習を開催しました。この催しを通して、より自然を大切にする心が育まれるとともに親子の絆が深まったようです。

今後も市民と協働で森林の整備を行い、美しい里山づくりに取り組んでいきます。

### 【虹のネットワークの取組み】

「虹のネットワーク」では、障害のある方ひとりひとりが自分のやれること、出来ることを考え共に働ける場所を作ることを目的として活動しており、その中で障害者の方と山形学園の子共たちが一緒に楽しむ木育活動を行いました。

切り出した木材全てにやすり掛けを行い、組み立てを行いながら、絵を書いたり色を付けたりと、それぞれ楽しみながら木製ブックスタンドを作製することができ、子供たちも喜んでいました。

来年もまた木育活動に取り組んでいきます。

# 最上地域における森づくり活動の取組み

（最上総合支庁）



## （1） 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（市町村提案型））

### 【舟形町の取組み】

令和元年10月５日（土）に舟形町若あゆ温泉地内において最上地域の豊かな自然に感謝し、県民参加の森づくりを一層推進することを目的として、「最上地域森の感謝祭2019」が開催されました。

感謝祭当日は、最上地域の緑の少年団による最上地域産の間伐材を使用したベンチの製作や木工クラフト体験を実施しました。製作された木製ベンチとゴミステーションは、舟形町の教育施設等へ寄贈されました。

若あゆ温泉や学校・福祉施設など、人が集まる施設に木製品を設置することで、町内の老若男女が温かみのある木に触れる機会が増え、木製品への愛着の醸成につなげることが出来ました。

また、木工クラフトで製作した作品については、自分たちが生活の中で使用するものであったこともあり、愛着がわき、大事に使用していただいています。

## （2） NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（県民提案型））

### 【花の風の会の取組み】

花の風の会は、新庄駅東口の植栽スペースを活用して、オープンガーデン「風の庭」の管理、整備を行っている団体です。

今年度は、会員と一般参加者が協力して花壇や歩道の整備、地元産材の杉チップ敷きなどを、大人から子どもまで協力して行いました。

通勤や通学、観光などで新庄駅を利用する多くの方に本事業で整備した「風の庭」を見てもらい、木の香りや温もりと触れていただき、森への関心を持ってもらうことができればと思います。

### 【山と川の学校の取組み】

特定非営利活動法人「山と川の学校」は、最上町大堀地区を拠点として、子どもから大人まで幅広い層を対象とした森林体験学習を行っている団体です。

今年度は、「子ども体験の森」として、地域の小学生や、県外中学校の教育旅行での林業体験の受け入れによる枝打ち、間伐等の里山整備活動を行いました。

子どもたちは活動を通して環境保全の重要性や、活動を次世代に繋げていく大切さを学びました。

# 置賜地域における森づくり活動の取組み

（置賜総合支庁）

## （1） 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（市町村提案型））

### 【米沢市の取組み】

米沢市では毎年、自然との触れ合いを通じて児童の水と緑を守り育てる心を養うため、学校林を活用した森づくり活動に取り組んでいます。

今年度は、10月２日に、米沢市立三沢東部小学校の小杉沢学校林で、全校による下草刈りと「ぼくの木、わたしの木」の測定などの自然観察を行いました。

１年生は、６年間観察するスギの木を決めて、自分の名前を書いた木製プレートを付けます。そして毎年木の直径を測定し、成長の状況をプレートに記録していきます。６年生には、自分の木の６年間の成長を確認するほか、１年生のプレート取付けや木の測定を手伝うなどの大切な役割があります。この活動を通じて、上級生が下級生を手助けする縦割り班の活動がしっかり身についていくそうです。

学校林では、鎌を使った草刈りや、長い年月のかかる木の成長などを実感し、自然や森林を守り育てることの大切さへの理解が深まっていました。

## （2） NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（県民提案型））

### 【歴史の道土木遺産萬世大路保存会の取組み】

同保存会では、国道13号旧道の米沢市と福島県福島市を結ぶ区間である山形県側の栗子山隧道（萬世大路）散策路を活用して、市民や小学生の自然観察会を行っています。

参加者の安全を確保するため、散策路周辺の草刈りや倒木除去などの森林整備を行うとともに、今年度は散策路に自生する樹木の調査を行い、樹名板を作製し取り付けました。

９月５日には、万世小学校５年生（49名）の校外学習として、萬世大路の歴史と自然環境の学習を行いました。

### 【新田チェリー会の取組み】

同会は、体験学習を通して、日常生活の中で里山を活用する方法を次の世代に受け継ぎ、里山の活性化を図る取り組みを行っています。

今年度は、小学生とその保護者を対象にナメコやタモギタケの植菌体験を行うとともに、森づくり活動中の危険生物への対処法の学習会や焚火体験を行いました。

こうした活動により、里山に人が入って活用することの大切さと面白さを学ぶとともに、親子の絆が深まりました。

# 庄内地域における森づくり活動の取組み

（庄内総合支庁）

## （1） 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（市町村提案型））

### 【鶴岡市の取組み】

県内最大の森林面積を有する鶴岡市は、西側は日本海に面し、多様な森林によって育まれる豊かな水産資源の恩恵を受けています。

そこで鶴岡市では、環境保全への関心を高めながら、「森・川・海」のつながりを含む豊かな自然を守り、良好な漁場環境を支えていくため、「魚の森づくり」として、身近な山に木を植え守り育てる活動を実施しています。平成９年度から油戸地区で開始したこの活動は、現在、堅苔沢地区と鼠ヶ関地区を合わせた市内３地区において、漁業関係者、地域住民、将来を担う子どもたちとの協働により実施しています。

今後も「魚の森づくり」活動を通して、豊かな水産資源を育む森林について、森林のもたらす自然環境への影響について周知を図るとともに、地域を支える大切な森林を次世代へと繋いでいきます。

## （2） NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

（みどり豊かな森林環境づくり推進事業（県民提案型））

### 【関未拓の会の取組み】

関未拓の会は、関川の未来を拓く活動に取り組む会として、集落の有志で組織されています。関川には、伝統的工芸品に指定される「しな織」があります。

「しなの木」の森づくり体験活動では、一般参加者を募り、しな織の原料となる「しなの木」の保育活動として枝打ちや「ひこばえ」探し体験、「しなの木」の皮はぎ体験などを行っています。今後も地域の文化を伝承する取組みを行っていきます。

### 【鳥海やわたインタープリター協会の取組み】

鳥海やわたインタープリター協会は、主に酒田市八幡地域を活動拠点とする団体です。自然観察会や自然観光ガイド活動を通じ、人と自然のかかわり方や自然保護について理解を深め、地域の振興と発展に協力し、自然環境の保全等に寄与することを目的に活動しています。

近年は、主な活動であるトレッキングの他に、酒田市内の小学校の自然体験学習の講師として、子どもたちと共に自然に親しむ活動も展開しています。

# やまがた緑環境税PR活動の取組み

県では、県民の皆様に「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。令和元年度に実施した主な取組みを紹介します。

## ●「やまがた森の感謝祭2019」の開催

【6月1日 酒田市「山形県眺海の森」】

「自然の恵み　守ってつなごう　山形の森」をテーマに県内各地から1,030名の方々が参加し開催しました。

参加者による記念植樹や緑の少年団によるウッドチップ敷きなどの森づくり活動を行い、また、会場の展示・体験コーナーは多くの人で賑わいました。

## ●森林所有者を対象とした説明会の開催

県内各地の森林組合等が開催している森林所有者向けの事業説明会で、やまがた緑環境税活用事業についても説明されています。

## ●PRパネルの巡回展示　【29箇所】

各種イベントや大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木工クラフトの体験を行うなど、家族連れに周知を図りました。

## ●やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ情報誌「もりしあ」の発行

【年2回、各20,000部】

「やまがた緑環境税」の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、公共施設や金融機関、ショッピングセンターなど県内各地に配布しました。

## ●新聞・フリーペーパー・ラジオ・プロスポーツを活用した普及啓発

【新聞広告：年1回　フリーペーパー：年3回　ラジオCMなど】

「やまがた緑環境税」の認知度50％（H27：45.1％）を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、プロスポーツを活用した普及啓発を行いました。

★今後もより分かりやすく、
より身近に感じてもらえるようなＰＲ活動に
取り組んでいきます★

森林やまがた 増刊号　令和２年３月20日発行　監修　山形県農林水産部
編集・発行　山形市松栄一丁目５番41号　山形県森林協会　印刷所　渡辺印刷　定価 268円